資料１

公園とは自然環境が守もられた、原則無料で誰でも利用できる地域の交流スペース

基本計画
公園等の機能・性格・理念・テーマ等を明らかにするものです。

芽室公園再整備基本計画

めむろの自然・緑・カシワ（200～400齢）の保全と共生の歴史とともに

Well-beingが実感できる緑豊かな公園

を理念・テーマとします。

公園施設は、長寿命化計画に基づき更新し予防保全型管理への転換やストック適正化として機能の集約・再編を行い維持管理の低減を目指す計画とします。

基本構想のテーマ
芽室町の緑と
レクリエーションの拠点公園

Well 良好な ＋ being 状態

・身体の健康
・こころの健康
・社会的つながり
全てに良好で、満たされた状態にあること

予防保全型管理：壊れてから直す→壊れる前に整備・修繕する管理へ
ストック適正化：ニーズに合わせた公園のあり方へ、今ある施設を適正化し機能の集約・再編を行う

都市公園ストック再編事業

既存の公園（ストック）の配置や機能を見直し
地域のニーズに合わせた再整備する取り組み

- 公園利用満足度の増加
- 維持管理費の削減率

都市公園ストック再編事業による基本計画について

基本構想にてニーズを把握(町民アンケート・ワークショップ)を行い、構想としました。基本計画ラフプランでは、まず、持続可能な維持管理や長寿命化計画などライフサイクルコストを基に各施設を精査した結果、すべての既存施設で老朽化・使用見込み期間が経過した施設や現在の安全基準に適合していない施設などがあり、更新の必要がある結果でした。よって、**都市公園ストック再編事業**にて機能の集約・再編と更新整備を行い町財源の負担軽減を図る計画とし本事業の重点項目である維持管理費の削減を行い、もう一つの重点項目である公園利用満足度の増加について、ニーズが非常に多かった町内全公園にも機能がない大型遊具を導入しニーズの反映を行う計画としたい。

都市公園ストック再編事業費　交付率１／２　財源

社会資本整備総合交付金（都市公園ストック再編事業） 国50% 【芽室公園ラフプラン概算　668,400,000円（全更新費用）】	起債（公共事業等債） 町45% 【芽室公園ラフプラン概算601,560,000円（全更新費用）】	一般財源 町5%

【芽室公園ラフプラン概算 66,840,000円（全更新費用）】

○ ストック適正化・予防保全型管理 → 都市公園ストック再編事業対象

・ 壊れてから直す修繕や基本計画から除外施設 → 芽室町単独費

基本構想概算額とラフプラン概算整備費【全更新費用】

構想での提案について、施設管理者による関係各課との調整を行い、必要性・重要度、規模・整備水準や費用について、検討した結果を**全更新費用（同規模、R8単価の撤去・建設費）**の算出しラフプラン概算整備費としました。よって、後年の**基本・実施設計**は、全更新の前提でなく使用できる内容選定・調査しコスト縮減を踏まえ**部分更新設計**を行う計画とします。

※ラフプラン概算整備費の**全更新費用**は**予算額**ではありません。全ての施設が壊れ最大費用としての更新費用です。

基本構想概算額	安全性、老朽化による更新必要な概算整備費【全更新費用】	更新に伴いニーズ反映概算整備費（大型遊具）	ラフプラン概算整備費
6,044,900,000円	1,209,700,000円	127,100,000円	1,336,800,000円

優先度の明確化と町財政を踏まえ
中長期計画として
芽室町都市公園ストック再編事業工程
次ページに示します

芽室町都市公園ストック再編事業工程について

●社会資本整備総合交付金都市公園ストック再編事業の採択要件

・事業期間	おおむね３年から５年とする。
・事業要件	（１）国費が（１５百万円/年）×（計画年数以上）であるもの。　※交付率1/2
	（２）「緑の基本計画」において、子育て支援、高齢社会対応等の課題に対応した都市公園の機能や配置の再編に関する方針が位置づけられていること。

※社会資本整備総合交付金交付要綱より

都市公園ストック再編事業重点地区における目標

①公園利用満足度の増加

②維持管理費の削減率

当初計画　令和６年度～令和１０年度の５カ年計画で要望

～令和10年度以降まで国、北海道と延伸調整済み

年度 / 公園名	R5	R6	R7	R8	R9（予定）	R10（予定）	R11（予定）	R12（予定）	R13（予定）	R14（予定）	R15（予定）	R16（予定）	R17（予定）	R18（予定）	R19（予定）	R20（予定）
芽室公園（Park-PFI事業区域を除く）	R6からの事業スタートに向けた準備期間 ・国費要望 ・ストック再編計画策定 ・芽室公園再整備構想策定 ・緑の基本計画改訂	都市公園ストック再編計画（基礎調査）	都市公園ストック再編計画策定 芽室公園再整備基本構想	**芽室公園再整備基本計画** **都市公園事業評価（都市公園便益分析）**		**芽室公園再整備測量・調査**		**芽室公園再整備基本設計**	**芽室公園再整備実施設計**	芽室公園整備費（工事） R8基本計画ラフプラン優先度① トイレ（ゆったりトイレ以外） 菖蒲園園路、土俵上屋 ラフプラン概算金額【全更新費用】 162百万円	芽室公園整備費（工事） R8基本計画ラフプラン優先度② ゆったりトイレ、照明、園路、広場 ラフプラン概算金額【全更新費用】 138百万円	芽室公園整備費（工事） R8基本計画ラフプラン優先度③ ウォータースライダー（噴水） ラフプラン概算金額【全更新費用】 318百万円	芽室公園整備費（工事） R8基本計画ラフプラン優先度④ 遊具 ラフプラン概算金額【全更新費用】 241百万円	芽室公園整備費（工事） R8基本計画ラフプラン優先度⑤ 公園管理事務所、球場安全施設 ラフプラン概算金額【全更新費用】 230百万円	芽室公園整備費（工事） R8基本計画ラフプラン優先度⑥ 球場スコアボード、健康機能付きベンチ ラフプラン概算金額【全更新費用】 111百万円	芽室公園整備費（工事） R8基本計画ラフプラン優先度⑦ 休憩施設（あずまや・パーゴラ・ベンチ類）、サイン、バーベキュー、写真撮影移動式看板 ラフプラン概算金額【全更新費用】 137百万円
51公園（芽室公園、新嵐山スカイパーク除く）		都市公園ストック再編計画（基礎調査）	都市公園ストック再編計画策定		**町内公園施設再編設計** 概算金額算出後ｽｹｼﾞｭｰﾘﾝｸﾞ	町内公園施設等整備費（工事） R9設計後にｽｹｼﾞｭｰﾘﾝｸﾞ	町内公園施設等整備費（工事） R9設計後にｽｹｼﾞｭｰﾘﾝｸﾞ	町内公園施設等整備費（工事） R9設計後にｽｹｼﾞｭｰﾘﾝｸﾞ	町内公園施設等整備費（工事） R9設計後にｽｹｼﾞｭｰﾘﾝｸﾞ	町内公園施設等整備費（工事） R9設計後にｽｹｼﾞｭｰﾘﾝｸﾞ	町内公園施設等整備費（工事） R9設計後にｽｹｼﾞｭｰﾘﾝｸﾞ	町内公園施設等整備費（工事） R9設計後にｽｹｼﾞｭｰﾘﾝｸﾞ	町内公園施設等整備費（工事） R9設計後にｽｹｼﾞｭｰﾘﾝｸﾞ	町内公園施設等整備費（工事） R9設計後にｽｹｼﾞｭｰﾘﾝｸﾞ	町内公園施設等整備費（工事） R9設計後にｽｹｼﾞｭｰﾘﾝｸﾞ	町内公園施設等整備費（工事） R9設計後にｽｹｼﾞｭｰﾘﾝｸﾞ

緊急性の高い老朽化、破損が発生した場合
修繕・撤去等の対応を実施

※ラフプラン概算整備費の全更新費用は予算額ではありません。
全ての施設が壊れ最大費用として同規模の施設を作り直す更新費用（R8単価の撤去・建設費）です。

総合計画	第５期芽室町総合計画		第６期芽室町総合計画		第７期芽室町総合計画
	後期実施計画		前期実施計画	後期実施計画	前期実施計画

緑の基本計画見直し

官民連携型賑わい拠点創出事業（Park-PFI事業）工程

令和8年度～令和9年度の2カ年計画

年度 / 公園名	R5	R6	R7	R8	R9	R10
芽室公園 Park-PFI 事業区域				Park-PFI事業		Park-PFI区域

都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業工程

年度 / 公園名	R７	R８	R９	R１０	R１１	R１２
新嵐山スカイパーク	新嵐山スカイパーク再生事業					

令和８年度　芽室公園再整備基本計画

計画素案（ラフプラン）



樹木凡例	
	カシワ
	サクラ
	その他樹木

ラフプラン検討内容

- ●緑・カシワの保全
- ●安全・安心な公園施設
- ●基本構想内容の機能と必要性について確認
- ●持続可能な維持管理施設
- ●維持管理におけるランニングコスト
- ●利活用、頻度による整備水準
- ●適正なゾーニングと施設位置
- ●機能の集約・再編
- ●老朽化（使用見込み期間）による優先順位

芽室公園維持管理の確認

環境土木課道路公園管理係

現在の芽室公園維持管理費

- ・Ｒ６年度　26,285千円
- ・Ｒ７年度　22,260千円

（平均24,273千円）

芽室公園ラフプラン維持管理費

○再整備後　18,600千円

ラフプラン後の基本計画（案）内容への検討

▪公園のあり方▪利用満足度の検討

基本構想（ニーズ）と基本計画（案）の機能の集約▪再編について分析検討

▪持続可能な維持管理の検討

現在までの維持管理費と基本構想での維持管理費、基本計画（案）の維持管理費について検討

▪基本計画（案）による基本設計▪実施設計の方向性

基本計画（案）は更新を主とし方向性の整理、基本設計▪実施設計の対象数量▪面積について精査

芽室公園の歴史的価値を保全し再整備

芽室町では歴史的に

●開拓以前は広大な原始の森林に覆われていましたが、開拓とともに自然林の多くが失われていきました。
●明治の開拓期に、周囲の開墾・伐採に対し地主が「馬の休み場にするから」と反対し、カシワ林を残しました。
●明治後期から昭和初期には官設駅逓所の牧場として利用され馬に日陰を作るために多くのカシワを残しました。
●第二次世界大戦中、芽室町には大規模な軍隊が駐留していました。
軍は暖を取ったり、自炊するために薪（まき）が必要で、芽室公園のカシワ大木を伐採させてほしいと要求し、芽室町役場職員と、教諭らが「この柏は絶対切らせない！」と強く反対し、軍の要求を拒んでカシワ林を死守しました。
●戦後の伐採計画も町の歴史の象徴であるとし伐採を認めておらず保全してきました。

※このときの芽室町の人たちが命がけで守った芽室公園のカシワ樹林は、樹齢：200～400齢におよぶ貴重なカシワ巨木が多く残されており、今も町の貴重な財産としてそびえ立っています。

★北海道自然環境等保全条例環境緑地保護地区等に指定されてます。
★芽室町において町のシンボルとし条例により町の木に定めており町の天然記念物としております。

めむろの自然と共生＝緑・カシワの保全